

カナダで国立公園が誕生して、今年でちょうど百年。第一号のバンフに始まって、現在二十九の国立公園がある。その三十一のなかでカナディアン・ロッキーの四つの国立公園が、昨年、国連のユネスコから、世界的名所旧跡に与えられる「ワールド・ヘリテッジ地域」に指定された。ワールド・ヘリテッジ（世界の遺産）に指定されるには、美しい自然や貴重な動植物が存在するだけでなく、地球や植物の進化の状態を如実に示していたり、あるいは人間と自然環境とのユニークな交

「世界の遺産」に指定 ユネスコが



ヨーホー国立公園

流が見られる地域で、人類の共有遺産として特に優れた価値を持っていなければならない。
カナディアン・ロッキーは、年間九百万人が訪れるカナダ第一の自然観光地域。今回のワールド・ヘリテッジ指定地域となったバンフ、ジャスパー、ヨーホー、クートネーを中心として、全部で七つの国立公園がある。
カルガリー（アルバータ州）からカナダ横断道路を西に走って百三十キロの所にあるバンフ国立公園は、観光客をはじ

め、スキーヤー、ゴルフアー、釣り人たちの憧れの的。標高二千五百メートルの山にゴンドラで登ると、ひすい色の湖や銀色の氷河、温泉を懐に抱いて、山々が縹渺と広がっている。キャンピングカーの繋泊地やテント施設も完備し、家族の休暇によく利用される。

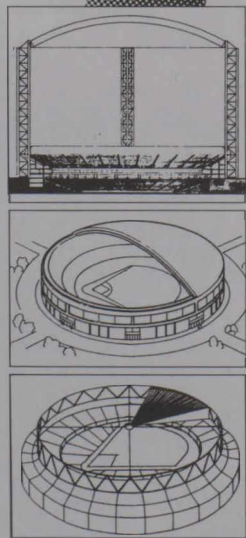
ジャスパー国立公園は、その昔、この辺りで毛皮交易所を営んだ毛皮商人ジャスパー・ホーウィズにちなんで命名された公園で、一帯には毛皮貿易とインディアンの活躍のエピソードがたくさんある。世界で最も美しいドライブウェイといわれる氷河パークウェイと氷河は、ジャスパーとバンフの両国立公園にまたがっている。
ジャスパーは北米全体で最大規模の自然公園である。自然散策や山歩きのメッカとして愛され、そうした山道は合計一千キロに及んでいる。

ヨーホー国立公園は、ロッキー山脈のど真中にある。神々しい高峰、氷河湖、奥深い原始林、壮大な滝、夏になると花の咲き乱れる谷間——ヨーホーは山の神秘をたたえた公園である。
クートネー国立公園は、四つの公園のなかで一番南寄りにあり、気候も比較的穏やか。インディアンにはるか昔から利用されてきたラジウム温泉が、この公園の目玉の一つ。冬でも人気を呼んでいる。冬のクートネーは、かんじきをはいて山を歩くスノーシューイングが盛んである。

トロントのど真中に、巨大な多目的スポーツ・スタジアムが建設される。屋根に世界最大の開閉式ドームを採用。晴天時には明かるい陽光の下で、雨天や雪には閉じた屋根の下で競技が楽しめるようにした全天候競技場だ。

収容人員は野球で五万一千五百五千、フットボールなら六万人。競技場の直径二百七メートル。屋根の高さ六十メートル。敷地全体は四・五ヘクタールある。
完成時には、カナダの人気球団トロント・ブルージェイズと、フットボール・チームのトロント・アーゴノーツのホ

屋根は開閉式ドーム トロントに 六万人収容の 全天候競技場



ドーム屋根の設計案。上から順にエア・トラス方式、半回転方式、ファン方式。

ームグラウンドになる。またスポーツ競技だけでなく、大規模なトレード・ショールやコンサート、各種大会の会場にも使用できる。スタジアム全体の設計は、トロントの建築会社クラング・アンド・ボーク社が担当するが、問題の開閉屋根にどの方式の設計を採用するかはまだ未定。
有力視されているいくつかの設計案は、すべて最大限の採光と、ドームの迅速な開閉に工夫をこらしている。そのうち三つを紹介すると、まずクラング・アンド・ボーク社がフランスの著名な飛行船メーカーであるエアズール・エファ社な

閉式となると技術的にも一段と困難が増す。しかも現地の気候条件にマッチし、現実的にかつ美的要素も備えていなければならない。専門委員会ではこうした点を考慮した上で、どの方式を選ぶか、一年以内に結論を出すという。
総工費約一億五千万（約二百七十億円）とされるこのプロジェクトは、アラスカヤン社など民間十三社のコンソーシアムと、オンタリオ州およびトロント市などの出資で、今秋に着工、三年後の一九八八年に完成の予定。屋根の取り付けは、八七年初めになるものと見られている。

どと共同設計したのは、エア・トラス方式。いわば空気膜の屋根である。チューブの先から圧縮空気を吹き出して、空気膜を作る方式だ。
オンタリオ州ミシソガのDAF・インダルの設計案は、アルミ枠に繊維膜を張ったドーム屋根で、その半分が回転してあとの半分と重なり、開閉する。
また、ゲイジャー社のファン・ルーフは数片からなる円屋根が、扇子のように開閉する方式をとっている。
屋根付きスタジアムは、さほど珍しくなくなってきたが、巨大な屋根でかつ開